

会 議 録

会議の名称	平成27年度第4回守谷市行政改革推進委員会			
開催日時	平成27年9月28日（月） 開会：14時30分　閉会：17時10分			
開催場所	守谷市役所 庁議室			
事務局（担当課）	総務部企画課			
出席者	委員	川西会長，佐々木副会長，梅本委員，吉田委員，福田委員 計5人		
	その他	外部評価ヒアリング対象課 （生活環境課）佐藤課長，鈴木係長 計2人		
	事務局	須賀総務部長，古谷総務部次長兼企画課長，石神企画員 計3人		
公開・非公開 の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人	
公開不可の場合 はその理由				
会議次第	1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1) 外部評価について (事務事業再ヒアリング・事務事業の施策内相対評価) (2) その他 4 閉会			
確定年月日	会議録署名			
平成27年10月6日	会長 川西 憲二			

審 議 経 過

1 開 会

2 会長挨拶

本日は、次第に書いてある議題の他に、これからの進め方について、皆さんから御意見をいただきたいと思ひます。

また、9月も末になりますので、昨年度私達が御提案申し上げ、市で回答していただいたことへのフォローアップの進め方についても、皆さんから御意見をいただきたいと思ひます。

川西会長： 本日の議事につきましては、これまでどおり、皆様からの異議がない限り、氏名を付したままで、意見の内容を議事録にさせていただきたいと思ひます。

3 議 事

(1) 外部評価について（事務事業再ヒアリング、事務事業の施策内相対評価）

■事務事業再ヒアリング

【常総環境センターの処理コスト等について生活環境課から説明】

佐々木副会長： 支出は、だれがどこに支出するお金ですか。

佐藤課長： 環境センターの予算で外部へ支払うものです。

佐々木副会長： 収入は4市からの分担金ですか。

佐藤課長： 直接搬入で個人が支払うもの、電力売電、拠出金であり、支出からそれらを差し引いたものを分担金として各市が負担します。

佐々木副会長： 実際に入ってくる収入としては、鉄くず等の売却費がありますが、運営委託費の計算における引取予定額の1億6,000万円に満たないため、収入としては計上されていない。それ以外の収入はないということですね。

佐藤課長： そうです。

佐々木副会長： 原価でいうところの変動費を示しているだけで、施設の償却費といった固定費の原価が見えません。

川西会長： 環境センターの固定費はどのようになっていますか。

佐藤課長： 別途、建設費として各市に振り分けられます。この分は、平成26年度で清算されています。

川西会長： 維持管理の費用は、どこに含まれますか。

佐藤課長： 今回示した資料の支出に含まれています。

佐々木副会長： 1世帯当たりのコスト等について、常総広域圏以外の他市と比較したことはありますか。

佐藤課長： 自前で処分場を持っている場合や、処分せずに固形燃料化する場合でコストも大幅に変わってきますので、同規模、同内容の自治体同士でないと比較が難しいと考えます。

佐々木副会長： この金額が適正なのかどうか、管理部門として、常に見ていく必要があると思います。

佐藤課長： 困難ではあっても、比較できる材料は用意して、その金額の正当性を実証すべきだとは考えています。

佐々木副会長： コストを比較することで、自分達の仕事の意味や価値を市民の方々に分かってもらうことが、管理部門の責任者には必要なのです。責任者がそれをやることで、部下は自分の仕事に誇りが持て、一人ひとりがもっと良い仕事をしようという気持ちになるのです。与えられた仕事をしているという雰囲気を変えていただきたいのです。

川西会長： 古紙などは、民間の場合、回収後にトイレットペーパーを置いていってくれるなど、市民にとってプラスになる部分がありますが、行政回収の場合は、市民にコストが掛かっています。このあたりは何とかならないのですか。

佐藤課長： 集団回収の分を行政回収に回した場合、収入が増え、1人当たりのコストは減りますが、集団回収は子供会や自治会等の活動資金になっているので、やめることはできないと考えています。曜日も決まっていますので、定期的に回収できる行政回収とそれ以外をカバーする集団回収の両輪で進めていきたいと考えています。

川西会長： マーケットの指標があるので、自分達がどれだけ効率的に適正なコストで行っているのかを意識していただきたいと思います。

結構なコストが掛かっているようなので、スーパーなどが無料で行っている分別回収の例などを参考にして、連携ができないかなども考えていただければと思います。

佐々木副会長： 環境センターでリサイクルに回っている分が、運営委託費の計算における引取予定額の1億6,000万円を下回っていて、その差額を業者が負担しているのであれば追及する必要もありませんが、市で補てんするのであれば、その差額を圧縮することも必要です。

佐藤課長： 質が良くリサイクルできるものやリサイクル量そのものを増やすためにも、市民の皆さんに分別に対して協力していただかなければならないですし、正しい分別方法を理解していただくような啓発をしていく必要があると考えます。

佐々木副会長： 引取予定額の1億6,000万円が妥当なのか、それとも実際の金額が妥当なのかについて、評価できる力を持っていただきたいです。

福田委員： 分別が少ない自治体もあると思います。そういった自治体は、高機能な炉になっているようです。排出が問題になってくると、自治体も高機能な炉が視野に入ってくると思います。守谷市ではなぜ導入しなかったのですか。

佐藤課長： 環境センターの炉は、分別しなくても焼却が可能な高性能なものです。なぜ、焼却しないのかというと、建設に当たって補助金を活用しようとする中では、国の基準に適合しないと補助金がもらえないということがあり、そのために、リサイクル率を上げ、処理量を減らす必要がありました。可燃、不燃を分け、収集の曜日もずらすことで、1日当たりの処理量を減らしています。過去に、指定袋を導入したことで処分量が3割削減され、可燃、不燃を分けたことでも15%削減されるなど、減量につながってきた実績もあります。

常総広域圏では、分別やリサイクル量を増やすことで、一番コストが掛かる最終処分量を減らすという考えに基づき、現在の分別や処理の方法となっています。

川西会長： ここを出発点として、今回提示していただいた資料と民間等で行われている内容とを見比べたり、収入がきちんと市場価値を表しているのかを見ていただいたりして、今後の行政にいかしていただきたいと思います。

■今後の進め方について

川西会長： 昨年度は、個々の事業について、最初に、廃止、見直しという視点を議論し、それについてのコメントを集約するという作業を行いました。今年も、作業の方向性はそれで良いでしょうか。

吉田委員： 必要のないものはスリム化し、その上で、必要ではあるものの貢献度が低いものをどうにかしようというのが通常の評価の方法だと思います。

佐々木副会長： 一つ一つの事業を継続するという考えでいくと、新規事業への予算の配分はどうなりますか。

事務局： 新規事業を行うには、コストも人も掛かるので、既存事業のスクラップが必要だという認識はあります。

佐々木副会長： 新規事業がない組織は先細りしてしまいます。市として、毎年どの程度の新規事業が必要だと考えていますか。

事務局： 具体的な割合は出していませんが、財政計画で長期的な事業出しを行

っている中で、新規事業が少なくなっている感があります。

佐々木副会長： 与えられている仕事をこなしているだけという雰囲気を変えていくためにも、組織として、事業の統廃合を積極的に行っていく必要があると思います。改善の余地がないといった事業は固定費のみになっていることが多いので、その事業を統合や吸収することで、コストが浮くこともあります。集計された貢献度を見ると、満点の半分を超えている事業が多く、いきなり廃止と判断するには無理がありますが、統合、吸収と判断できる事業はヒアリングの中でいくつかあったと思います。今年は積極的に統合や吸収を提言し、例えば、件数を半分にするなど目標を打ち出せば、新規事業に回す資源が出てくるのではないのでしょうか。

吉田委員： 今回は、課をまたがって統合すべき事業が非常に多い感じがします。ただ、統合することによって、職員ひとり一人の負担量が減るのかどうかは良く分かりません。予算も含めて、ある程度大きな規模でないと、事業の融通はきかないと思います。事業を集約する形の方が、職員も動きやすいのではと感じています。

川西会長： 前回は、総論では統合と言いながらも、何をどう統合して良いかが分からないので、各論では統合と判断した事業が少なかったのだと思います。それを踏まえると、統合するのであれば、委員会としての意見を出した上で、市の意見を聞いてみないと、議論が進まないように思います。

佐々木副会長： 会長が今おっしゃられたことをやろうと思うと、市の全部の事業についてヒアリングをしないと判断ができません。全体を見て根本からやるか、ヒアリングをした目に見えているものだけをやるかだと思います。できるなら全部やりたいですが。

事務局： 統合したときに事務量が減るかが重要であり、統合することで効率的になるのであれば、市としても進めるべきことだと考えます。事務の効率化と市民の方にとって効率的になることの二つで、メリットがあるかどうかです。

事業自体の統合が難しくても、窓口を一本化して、受けた仕事を各課で分けるということではできると思います。

梅本委員： 同じような対象に対して、似たような事業があるので、国からの予算の関係で縦割りなのは仕方がないにしても、もう少し連携を取り、同じ方向を向いて進めていくということを考えても良いのではと感じます。ベネフィットやパフォーマンスの向上も考えていただければと思います。

吉田委員： 部門同士の連携は望ましいことですが、現実的には、どの自治体にとっても難しい問題です。ただ、あまりにも類似事業が多いので、委員会で整理して投げ掛けなければいけないと思います。ただ、省庁の関係とは別に、守谷市として事業の統合ができるのかを危惧しています。でき

るのであれば、そういった提言になりますが、そもそも無理だと言うのであれば、提言は画餅になってしまいます。

川西会長： 現実的には、数を絞り込みながら、統合を提言していくことでいかがでしょうか。

佐々木副会長： 新規事業を実施するに当たっては、私の経験論を述べますと、主管部門に投げ掛け、数値目標を出した上で、問答無用に既存の事業数を減らす手法を取ってきました。

吉田委員： 数値目標を今ここで言えるのかが分かりません。

川西会長： 提言に数値目標を書くことはおかしくないですが、一番重要なのは、市側にその目標が受け入れてもらえるかどうかです。

事務局： 事業の統合自体はできると思いますが、一番重要なことはコストを減らすことだと思います。そうしなければ新規事業もできません。

川西会長： 大まかに事業数の削減割合を提言しても良いのではと思います。例えば、総論として、2割程度の削減を目指してもらいたいぐらいの表現でいかがでしょうか。

梅本委員： 削減の数値目標に理由付けができないのであれば、それはいかななものかなと思います。

川西会長： 理由付けはありません。数値目標を掲げないといけないという理由付けだけなのです。数値目標がないと前に進まないというだけで、その数値には何の根拠もありません。一つ一つの事業に対して提案ができれば良いのですが、それができないから、数値目標を掲げるのです。

佐々木副会長： 企業では変化が必要なのです。安定期にあれば既存の2割、変革期であれば既存の5割を削減し、その分を新規事業に充てるのです。数値目標の根拠としては、変革期にある企業と安定期にある企業が事業計画を立てるときに、大体の目安としてきたものです。

また、100万円以下の事業は統合しましょうというのも一つの考え方として挙げられます。

吉田委員： 目標を立てることは必要ですが、最終的な数値目標は検討した後に出てくるものだと思います。数値目標をここで話し合う前に、個別の事業についての議論に入った方が良いでしょうに感じます。

川西会長： それでは、数値目標の議論は先送りして、個別の議論に入りたいと思います。

判断の方向性としては、統合、廃止、見直しという言葉に捉われずに、適切な言葉があれば、それを冠していきたいと思います。

【個別の事務事業について提言のとりまとめ作業】

個別の事務事業について、各委員から御意見をいただき、廃止、統合等の判断と提言のとりまとめ作業を実施しました。

(2) その他

■昨年度の提言に対するフォローアップについて

川西会長： どのように進めたら良いか、皆さんの御意見をお願いします。

吉田委員： 結果をどう受け止めたかは確認したいです。

川西会長： 提言に対する市の方針が出されていますので、この進捗状況をお聞きするのも一つの方法です。その確認をいつやるのか、いつが適当なのか。内容によっては、将来に渡るものもあるし、すぐにできるものもあります。外部評価結果に対する市の方針として、ほとんどのものについて御同意いただきました。委員会としても、それについてしっかりとフォローして、意見の食い違い等があれば調整したいと思います。

事務局： 上半期が終わる時期なので、それらの状況報告、方向性、スケジュール等について、次々回（第6回）に担当課から説明できるよう、調整をしていきます。

佐々木副会長： この委員会に報告する資料を新たに作るのではなく、役所の中で既にある業務報告の資料を使って、説明ができるようにしてほしいです。プラスの作業をせずに対応していただきたいです。

川西会長： 逆に言いますと、求めている資料ができてないのであれば、今後に向けて、作っていただきたいという意味合いもあります。日常業務の中のものを見せていただきたいですし、特別に作成をお願いするとしたなら、日常業務に取り入れていただきたいと思います。

また、この他に、委員会として提言をまとめていく作業もありますので、委員会の開催日数を追加していただきたいと思います。

■次回委員会の内容及び提言シートについて

川西会長： 次回は、引き続き、提言シートのまとめ作業を行っていきます。

本日の提言をまとめたシートは、次回の委員会の1週間前までを目安に御送付いただくようお願いいたします。また、本日のヒアリングを受けて、塵芥収集事業の評価やコメントに修正があれば、再度事務局に御報告ください。

4 閉 会